

SCCに基づいたeラーニングによる プロジェクトマネジメントコースの実施結果報告

Improving an e-learning project management course by Story Centered Curriculum.

片野 俊行^{*1}^{※2} 根本 淳子^{*1} 中野 裕司^{*1} 鈴木 克明^{*1}
Toshiyuki Katano Junko Nemoto Hiroshi Nakano Katsuaki Suzuki
熊本大学大学院^{*1}

Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

TDM コンサルティング株式会社^{*2}

TDM Consulting co., Ltd.

＜あらまし＞ グローバルなプロジェクトマネージャ資格として知られる PMP®試験対策講座をストーリー中心型カリキュラム(以下 SCC)に基づいて改善した結果を報告する。実践的な試験対策講座の場合、学習意欲の観点から、現実的な課題に直結することが学習効果を高めると考え、SCC に基づいた改善を行った。そこで、ゴールベースシナリオ理論に基づくストーリー中心型カリキュラム(以下 SCC) に基づいて設計、開発した実務型資格試験対策用 e ラーニング講座の実施結果を報告する。実運用中の PMP®試験対策講座において、SCC オプションとして 10 個の自由選択課題を提供した結果、50 名中 34 名が選択し、うち 9 名が全課題を修了した。この 9 名 は、より多くの学習を要したにもかかわらず、学習期間が平均より短く、しかも模擬試験の成績もよかったことから、SCC による改善効果がある程度認められたと考える。

＜キーワード＞ストーリー中心型カリキュラム e ラーニング 社会人教育 プロジェクトマネージャ

1. はじめに

1.1 背景

株式会社 TRADECREATE (以下 T 社) では、PMI が主催する PMP®試験対策講座 e ラーニング講座(以下 PMP®講座)を 2008 年度から実施している。このような実践的な試験対策講座の場合、学習意欲の観点から、現実的な課題に直結することが学習効果を高めると考え、ゴールベースシナリオ理論に基づくストーリー中心型カリキュラム(以下 SCC)を用いて見直した結果、図 1 に示すように PMP®講座に SCC による部分を追加で実装した講座(以下 PMP®+SCC 講座)を開発した。社会人教育に SCC を取り入れた例はまだあまりなく(鈴木他, 2008)、本研究のような実践的な試験対策講座に

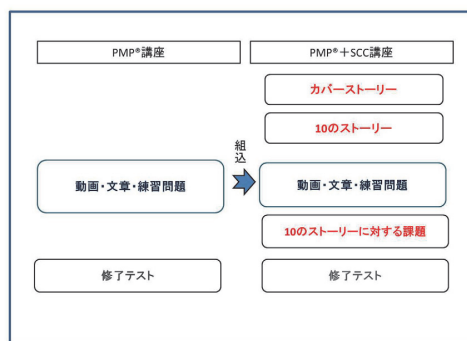


図1 SCC 講座の流れ

関しては調査した範囲内では見つからなかった。今回作成した PMP®+SCC 講座を、T 社受講生 50 名に対して、SCC 部分を自由選択オプションとして提供した。また、既存の PMP®講座を T 社受講生 40 名につき提供したデータと合わせて、今回の報告では学習日数、学習終了時の模擬試験平均点について測定した実施結果を報告する。

1.2 SCC 講座のストーリーについて

SCC は、コース全体に一つのストーリー性のあるシナリオを実装する。学習者はそのストーリーに沿って学習を行い、ストーリーの流れに沿って

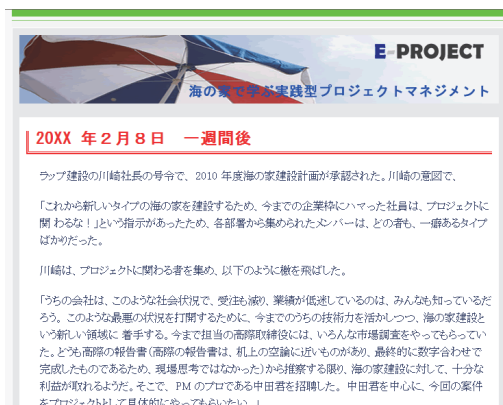


図2 ストーリー（一部）

個々の課題を完了させる。PMP®試験は実践的な専門用語が多いため SCC を実装することで学習者自身の経験とのリンクがしやすいと考えた。

SCC のストーリーテーマは、海の家を建築とした。図2に示すように海の家を建築するストーリーの中でプロジェクトマネジメント実務の際に必要な書類の作成を主な課題とした。課題は講座にあわせ 10 の課題を設定した。プロジェクトを進めていく中で、学習者は主人公としてプロジェクトには欠かせない重要な WBS 等の実践的な課題を作成するという流れで学習する。海の家をテーマ設定した理由は、IT、建築など様々な業種の学習者が対象となるため、どの学習者もなじみやすいと考えたからである。また、課題は様々な業種において共通に利用される計画書の作成を中心として設計した。学習者が実施した課題をテンプレートとして実務に反映させることができると考え教材を設計・開発した。(片野, 2011)

2. 調査結果

SCC はオプションにしたため、SCC を受講しないで学習することも可能である。PMP®+SCC 講座 50 名中 34 名のコース終了者の SCC の受講状況は、SCC 課題を全部 (課題 10 まで) 修了した者 9 名、途中で止めた者 16 名、全く課題を実施しなかった者 9 名であった。一方、PMP®講座のみを提供したコース終了者は、40 名中 30 名であった。

学習日数においては PMP®+SCC 講座の学習者は 43.3 日 (SD=26.8) であった。その中で課題 10 まで実施した 9 名の学習者の平均学習日数は、37.7 日 (SD=15.7) であった。また、全く課題を実施しなかった学習者 9 名の平均学習日数は 49.8 日 (SD=30.2) であった。一方、PMP®講座のみを提供した学習者は、平均学習日数が 42 日 (SD=30.0) であった。

PMP®試験は 175 点満点の試験であり 106 点で合格となる。学習終了時の模擬試験においては、PMP® +SCC 講座学習者 30 名の平均点は 124 点 (SD=11.9) であった。その中で SCC 課題をすべて解いた学習者の平均点は 131 点 (SD=10.7) であった。また、PMP®+SCC 講座において SCC 課題を全く実施しなかった学習者の平均点は 119 点 (SD=16.3) であった。一方で、PMP® 講座のみを提供した学習者は 24 名の平均点は 120.7 点 (SD=7.8) であった。

3. 考察

PMP®+SCC 講座は、SCC 講座の分だけ課題が多いため、PMP®講座に比べて 4 日程度 (約 12 時間) の学習を追加で要するように設計したが、2 で述べた様に、PMP®+SCC 講座学習者のうち課題 10 まで修了した学習者の学習平均日数は 37.7 日であり、PMP®+SCC 講座平均学習日数 43.3 日より 6.5 日短い期間で学習を終了した。さらに、PMP®講座のみを終了した学習者の平均学習日数 42 日より 4.3 日短い結果となった。

次に、PMP®模擬試験の点数は、PMP®+SCC 講座を受講した学習者の平均点は 124 点である中において、PMP®+SCC 講座学習者のうち課題 10 まで修了した学習者の平均点は 131 点であった。一方で、PMP®講座のみを提供した学習者の平均点は 120.7 点であった。

つまり、SCC が組み込まれた PMP®講座+SCC 講座をすべて終了した学習者 9 名は、全く課題を実施しなかった学習者 9 名、課題を途中で課題をやめた学習者 16 名及び PMP®講座のみを提供した学習者 40 名に比して、短期間で学習し、高い学習効果を得ることができた。学習者が SCC を上手に利用できた場合には学習を促進する効果があり、SCC 課題を解くことが得点上昇に寄与していると考えられる。

4. 今後の課題と改善点

PMP®+SCC 講座の学習者の中で、SCC 課題を全く実施していない、もしくは、途中で課題を止めた学習者へのアンケートにおいて、別のストーリーだったら学習すると 36% (回答者 22 人中 8 人) が答えた。学習者の業務に直接的に関連するストーリーの PMP®+SCC 講座の運用及び SCC は実践的な学習カリキュラムであるため SCC を受講した学習者に対してコース終了後 3 ヶ月後における実際の実務への役立ち度について研究を進めていく予定である。

参考文献

- 鈴木 克明, 根本 淳子, 松葉 龍一 (2008) e ラーニングによる e ラーニング専門家養成大学院へのストーリー型カリキュラム導入. 教育システム情報学会 Vol.23, No.1 pp. 65 ~68.
- 片野俊行 (2011) SCC に基づいた e ラーニングによるプロジェクトマネジメントコースの設計・開発, 熊本大学大学院 社会文化科学研究科 教授システム学専攻 2011 年度提出修士論文.